

本番参加19%

第七十四回古民家歴史部会歴史探訪のご案内

平成25年1月15日

古民家歴史部会 木島・原本

前回は、平成24年度企画「横浜、西区・中区・磯子区の今昔探訪」の7回目として、「外国人墓地・フランス山・アメリカ山」を探訪しました。

今回は、「中華街の史跡・人形の家」を探訪します。ご期待ください。

記

日 時 平成25年2月7日（木）（今回も雨天決行します）。
集 合 場 所 JR根岸線「石川町駅」南改札口（元町商店街入口側）9時50分出発。
資 格 本郷ふじやま公園傷害保険適用のため登録会員に限ります。
用 意 す る 物 前回に続き町中を歩きます。交通安全にご注意下さい。
行 程 石川町駅→元町商店街→巖島神社→朱雀門→横浜大世界→天長門→市場通り門→関帝廟→日本国新聞発祥地→地久門→横浜中華学院→山下町公営駐車場展示→延平門→西陽門→善鄰門→朝陽門→玄武門→人形の家→みなとみらい線「元町・中華街駅」・「石川町駅」。

○食事場所；解散後昼食自由行動。

以上

参加19名

第七十四回「本郷ふじやま公園古民家歴史部会」歴史探訪 横浜、西区・中区・磯子区の今昔探訪

12/13(木) ①家5:05 ②8:12バス8:15 大船場8:25 大船場8:29 石川町
元町9:05 朱雀9:12 馬祖廟9:15 関帝廟9:20 新南門9:22
25. スク(木) ③家5:17 ④8:02バス8:05 大船場8:14 大船場8:24 石川町8:29
「IX」2月7日(木) 中華街の史跡・人形の家 (赤羽行) 元町口へ8:51

集合場所；JR 根岸線「石川町駅」南改札口（元町商店街入口側）9時50分厳守同時出発

行程；JR 石川町駅→元町商店街→厳島神社→朱雀門→横浜大世界→天長門→市場通り門→
関帝廟→日本国新聞発祥地→地久門→横浜中華学院→(山下町公営駐車場展示)→延平門
→西陽門→善鄰門→朝陽門→玄武門→人形の家→みなとみらい線「元町・中華街駅」・
「石川町駅」。

食事場所；「」TEL045——。

元町厳島神社 10:00~10:05

○華僑のあゆみ（中華街）

安政6年（1859）横浜開港と共に始まった。始め欧米人の買弁（バイベン・貿易の仲介・通訳）として、又、使用人として来日した華僑は、圧倒的に広州の人々が多かった。今も200軒近くある料理店の内約7割は広東料理店である。欧米人がおもに山手居留地に住んだのに対し、彼らは埋め立て居留地に居をかまえた。付近の道に対し中華街の道が斜めになっているのは、開港前の横浜新田当時の畦道をそのまま使ったからだと言う。しかし、街の方向は風水学上とても良いそうだ。「風水」は中国の地相占いで、地形から吉凶を判断する。

1870年代（明治3年～）には約500人の華僑が住んでいたようで、関帝廟が建てられ、劇場「会芳楼」も造られ、今の中華街の基礎がつくられていった。しかし職業は今のよう料理店が多いわけではなく、実に多種多様な仕事についており（第1産業はない）華僑から様々な技術が日本に伝わった側面もある。明治32年（1899）居留地が撤廃され、居住・商売とも自由になったが、内地雑居令による制約、日本人の技術的進出、関東大震災による打撃などにより、経済活動の範囲は狭められ、彼らの技術的優位の保たれた職種、いわゆる三把刀（サバトリ・料理業・洋裁業・理髪業）が発達していった。戦後洋裁と理髪はすたれたが、料理は特に1970年代（昭和45）から益々盛んになった。現在在日6世も生まれ、日本人と結婚する人、帰化する人も増え続けている。「落葉帰根」（海外で暮らしていてもいずれ故郷に帰る）という言葉がある。此は華僑の有様を示す言葉であるが、今や「落葉生根」（その移り住んだ土地に根を生やす）と言う生き方に変わりつつある。彼らの故郷

→元町中華街へ

は此処である。自らのアイディアを保持しつつ周囲と協調・融合し、たくましく前身していく姿勢こそ横浜中華街らしさをつくっている。

1. 朱雀門 (南門・厄災を祓い福を招く門)。媽祖廟 (マツノヨ) ; 2006 年開廟女神廟 (入館 100 円・線香代 500 円)。

2. 横浜媽祖廟 (9:00~19:00 年中無休・媽祖際、良縁際、カウントダウン、厄除け神輿くぐり・航海安全、自然災害、疫病、戦争、盗賊から護る女神)

天井聖母「媽祖マツ」は北宋時代実在した福建省・林氏の娘。28歳で修行を終え天に召された後も、赤い衣装を、まとして海上を舞い、難民を援助する姿が見られたので人々は廟を建てて護国救民の神様として祀った。

お線香お供え参拝順路 ; 玉王上皇 (天の神様香炉) → 媽祖様 (天井聖母) → 臨水夫人・註生娘娘 → 文昌帝君・月下老人 → 土地の神様 (福德正神)・境内、金亭 (金紙供える)・点燭台 (明燭供える)・売店 (お札、お線香、金紙、セツ)

3. 横浜大世界 (1, 2 階ダスカマーケット入場無料・3, 4, 5 階中華食祭広場入場無料・6 階太世界劇場大人 1000 円, 子人 700 円ミュージアムセット料金・7, 8 階大世界ミュージアム大人 500 円小人 300 円)

4. 天長門 (関帝廟を象徴する門)。

5. 市場通り門 2 基 (中華街の賑やかさを象徴する門)

6. 関帝廟 (三国志の英雄で華僑に敬愛されている関羽を祀る廟で民間信仰の篤い三神も祀られている華僑にとって大切な心の拠り所)

7. 日本国新聞発祥地 (元治元年 (1864) 海外事情を明らかにする目的にジョセ・ヒコ (浜田彦蔵) 外国新聞を翻訳・編集し、日本初の邦字新聞「海外新聞」を発刊した)

8. 地久門 (関帝廟を象徴する門)

9. 横浜中華学院 (建学提唱者孫文の碑・日本華僑を生んだ、優れた文学者蘇曼殊、マツノヨの碑)

10. 山下町公営駐車場展示スペース (壁に古代中国から伝わる 9 頭の龍が描かれ、季節ごとに様々な展示開催)

11. 延平門 (エンペイ・西門・平和と平安のやすらぎを願う門)

12. 西陽門 (西の太陽に一番近い門・牌楼パロウ 7 種 9 基この街にある、風水学を取入れて関帝廟を中心に四方を 4 神が守る配置になっている)

13. 善鄰門 (1953 年, 昭和 28 横浜復興として中華街・元町・山下町の 3 点をセットで観

光の目玉として町おこしを図った最初の牌楼・中華街の象徴的存在)

13・信用組合横浜華銀「白手起家」(ハイチーチャ・無から事業を起こす)であった彼らの相互扶助的信用金庫)

14・玄武門 (北門・子孫繁栄をもたらす門・附近は龍舞, 獅子舞練り歩くお祭り広場)

15・朝陽門 (東門・繁栄をもたらす朝日を迎える門)

16・参考資料

○三国時代・三国志演義 (サングクシエンギ・中国明代の羅貫中作の白話 (口語) 歴史小説・水滸伝・西遊記・金平牌と共に4大奇書の1つ成立15世紀)

○三国時代; 中国, 後漢滅亡後, 魏 (キ)・呉・蜀 (シヨク) の三国が天下を三分して争った時代。後漢末, 宦官 (カンガン) の専横による政治の腐敗墮落, 黄巾賊の全国的反乱は帝室の威信を失墜させ, 地方には豪族が割拠 (カクキョ) した。そのうち曹操は, 黄巾の乱を平定して頭角を現し, 後漢最後の献帝を擁して華北を統一した。

一方、江南の豪族も, 孫権を中心とした勢力を拡大, 又, 漢室の後裔 (コウエイ) と称する劉備も名臣諸葛亮 (シヨカツリョウ) の献策を用いて蜀を勢力範囲とした。208年, 劉備は孫献と結んで曹操を赤壁の戦いで破ると, 天下三分の形勢は深まった。220年, 曹操が没すると, その子曹丕 (ソウヒ) は漢帝から帝位をうばい魏王 (キョウ) を称した。221年には劉備も蜀漢王を名乗り, 孫権も29年には呉も帝王につき, 三国時代が開始した。

魏は中原の地をしめ, 法治主義を採用し, 人材の登用を図って九品中正の法を行い, 屯田制 (国の耕作者集団制・北海道農作兵士制) を各地に施行するなど, 国力は最も充実していた。蜀は四川を開発し, 背後の雲南地方に兵を出し, 呉も華中・華南を平定して遼東の公孫淵とも通じた。しかし, 蜀は234年諸葛亮が陣没すると国勢振るわず, 263年魏に併合され, 魏も265年武臣司馬氏のために国をうばわれた。司馬氏の建国した晋 (シン) の統一王朝が中国を支配した。

○三国志演義; 後漢 (ゴカン・中国王朝1つ) 末の魏・呉・蜀三国の争いを描き, 関羽・張飛・曹操・諸葛孔明ら英雄豪傑の魅力, 数々の名場面をちりばめたスケールの大きな, 数ある中国歴史小説中の白話 (ハクワ・口語)。三国の物語は, 史書として「三国志」があるが, のちに伝説も加えられて民間に伝わり, 宋代には講談として語られた。

14世紀初め, 「全相三国志平話」として粗略な形にまとまったが, 羅漢中がさらに各種の物語を集大成し, 文書を練って改作したのが本書である。我が国でも江戸時代の「通俗

石川町 9:45

西陽町 11:05~07

三国志」以来、吉川英治の「三国志」に至るまで、各種の翻訳・翻案等数多い。

○孫文；明治28年（1895・字名は逸仙イッセン又は中山・1866～1925）広州蜂起に失敗した孫文は、同年11月初めて日本を訪れた。山下町53番地（大栈橋入り口付近NTT駐車場の処）の馮鏡如（フキョウジヨ）が経営する文経印刷店（キングセール商会）に住んだ。此処で華僑支援のもと興中会横浜支部を起し、革命と金策のためでかけたが、ロンドンで清（シ）の公使館に幽閉されてしまった。

しかし、此は逆に世界に孫文の革命家としての名を知らしめることとなった。1897年（明治30）2度目の来日（警察署に清朝からの保護を願い出て、署は身の安全を良くはかってくれたと言う。孫文は華僑教育の大切さに鑑み、中西学校（中華文化と西洋文化を共に学ぶ必要と名付けた名・後大同学校から中華学院に・名誉会長は犬養毅であった）を提唱設立した。1897年来日時泊まった陳小白（チンショウハク）家で終生の日本人支援者宮崎滔天（トウテン）に会った。

1905年（明治38）東京で中国同盟会結成し、以後東京の支援宅で世話になった。富岡慶珊時門前に孫文上陸記念碑、此は辛亥革命（シンガイカメイ）の成果を袁世凱（エンセイカイ）に奪われ、1913年第二次革命を起こしたが敗れ袁（エン）に追われていたとき夜陰に乗じて上陸し支援者の手助けのもと東京へ行った事の記念碑である。鶴見総持寺に孫文革命に殉じ死亡した人々の霊を慰める碑（日本人支援者建立）碑がある。

1924年（大正13）神戸で「大アジア主義」講演を行って西洋的覇道を歩む日本に警告し、その4ヶ月後「革命未だ成らず」と言いつつ亡くなった。新三民主義（民俗・民権・民生）確立を眼目し帝国主義列強からの圧迫から脱出を図った。

○蘇曼殊（ソマンジュ・1884～1918・本名玄瑛；詩人・中国文学者。横浜生まれ、母は日本人成城高等学校（現成城大学）に学ぶ。中国に帰ってから教員、上海国民日報紙で翻訳・論説に活躍、清末の運動に参加。後、僧籍（出家）に入る。日本や東南アジア各国を遊歴、優れた詩や小説を作った。パイロンやシェリーを中国に紹介。自伝小説「断鴻零雁記」（ダンコウレイガンキ）。

○同郷会館（異郷にあつて血縁・地縁を大切助け合つて暮らす精神は健在で多くの同郷会がある・京浜三江公所・広東要明鶴同郷会・広東会館・福建会館・台湾同郷会など）。

○リニューアルしたマリンタワー（平成21年6月）

石町駅（北口）11:08（お肉支）

以上